

報道関係各位

2026年5月13日  
三菱地所株式会社

～全国の美大・芸大卒展から厳選された20作品が丸の内に集結～  
 アート アワード トーキョー マルノウチ  
**『ART AWARD TOKYO MARUNOUCHI 2026』開催**  
**開催期間：2026年5月25日（月）～6月21日（日）**  
**開催場所：行幸地下ギャラリー**

三菱地所株式会社は、5月25日（月）～6月21日（日）の期間、「ART AWARD TOKYO MARUNOUCHI 2026」（以下、AATM）を開催します。

**【AATM とは】**  
 2007年にスタートした若手アーティストの発掘・育成を目的とした現代美術の展覧会です。全国の主要な美術大学・芸術大学・大学院の卒業修了制作展を審査員が訪問し、発掘したノミネート作品の中から厳選した作品を丸の内に展示。さらに審査員による最終審査を実施し、グランプリや審査員賞などを決定します。

20回目の開催を迎えるAATMは、今年も**全国18校からノミネートされた200点の作品より、厳選した20作品を展示**します。開幕日の5月25日（月）には、20作品の中からグランプリなど各賞を決定し、表彰式を行います。

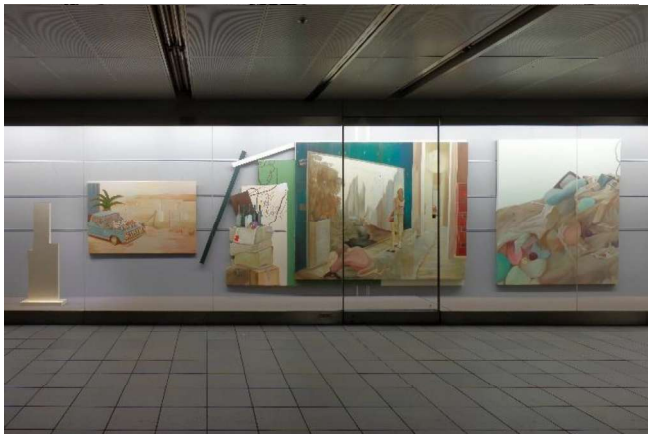
また、期間中はAATM初回参加作家で、現在も活躍中の作家による特別展**『AATM2026 サテライト展』を三菱一号館美術館のEspace 1894にて開催**します。

丸の内は今後も、文化・芸術の発信地としてアートとの出会いの場を創り出し、若いアーティスト達の可能性を広げていきます。次世代を担うアーティスト達の清々しく斬新な感性が一堂に会する機会を、ぜひお楽しみください。



ノミネート作品の詳細は、<https://www.marunouchi.com/pickup/event/9604/>からご覧いただけます。

<2025年開催時の様子>



▲アートアワードトーキョー丸の内 2025 グランプリ受賞作品 相波エリカ「serious and unimportant」



▲会場の展示イメージ

## ■「ART AWARD TOKYO MARUNOUCHI 2026」開催概要

＜開催日程＞ 2026年5月25日（月）～6月21日（日） 11:00～20:00

※最終日のみ18:00まで。

※観覧可能時間は変更になる場合がございます。

＜展示会場＞ 行幸地下ギャラリー

＜入場＞ 無料

＜主催＞ 三菱地所株式会社

＜協賛＞ 株式会社大林組、公益財団法人アイスタイル芸術文化財団、  
一般財団法人川村文化芸術振興財団、大和証券グループ、  
能美防災株式会社、丸の内熱供給株式会社

＜後援＞ 三菱一号館美術館／在日フランス大使館／アンスティチュ・フラン  
セ東京

＜Webサイト＞ <https://www.marunouchi.com/pickup/event/9604/>

## ■AATM2026 サテライト展

第1回目の開催となったAATM2007に参加し、現在も活躍を続ける4名  
のアーティストの作品を紹介する特別展を開催いたします。

＜日時＞ 2026年5月25日（月）～6月21日（日） 10:00～18:00 \*会期中無休、入場無料

＜会場＞ 三菱一号館美術館 Espace 1894

＜出展アーティスト＞ 小牟田悠介／谷澤紗和子／抜水摩耶／安田悠



## 【審査員】

今村有策氏（元東京藝術大学 副学長）

木村絵理子氏（弘前れんが倉庫美術館 館長）

後藤繁雄氏（編集者、クリエイティブディレクター、京都芸術大学 名誉教授）

小山登美夫氏（小山登美夫ギャラリー 代表、日本現代美術商協会 顧問）

建畠哲氏（多摩美術大学 名誉教授）

藪前知子氏（東京都現代美術館 学芸員）

小牟田悠介氏（アーティスト、AATM2007出品作家）

池田祐子氏（三菱一号館美術館 館長）

## 【一次審査を終えた審査員のコメント】

### ■後藤繁雄氏

古来より、優れたアーティストは、「坑道のカナリア」  
になぞらえられる。地底で働く鉱夫たちが、来るべき  
災害を予知するためにカナリアの力を借りたことに由  
来する。アートアワードトーキョー丸の内の審査で全  
国の美術大学の卒展・修了展で、アーティストたち  
の作品に対面するたびに、その作品が、どのような  
未来を予知するシルシなのかと思わせられる。



しかし、今や未来は単純なものではあり得ない。真実とフェイク、見え  
ないものと見えるもの、善と悪、敵と味方、私と世界、希望と絶望な  
どが、2項対立ではなく、全て入り混じって分離できない社会にたどり  
ついているからだ。

AATMの今年の審査においても強く印象に残ったのは、アーティスト  
たちが、その複雑さを何とかして可視化しようと奮闘している姿、作品  
である。受け狙いの紋切り型の作品には、魅力がなく、より複雑な道  
を歩む作品が可能性を持ち、光を放っているように感じた。終わりな  
き世界を感じさせてくれることが、AATMに結集したアートの力なのだ  
と、改めて感じた。

### ■建畠哲氏

総じていえば、私的な発想による、  
広い意味での物語性を宿した表  
現が多かったように思う。コンセプ  
チュアルな傾向の作品でも、禁欲  
的な理知性ではなく、多少なりと  
もインティメイトな気配を有してい  
るのである。この世代ならではの  
ネオポップ的な感覚が共有されているともいえようが、し  
かし興味深いのは（何も今回に限ったことではない  
が）、そこにながしか地域的、環境的な特色が見て  
取られもすることだ。



# ART AWARD TOKYO MARUNOUCHI 2026

## 表彰式・展示会場 取材のご案内

- ❖日時：2026年5月25日（月）16:00～17:30（受付開始 15:30）
- ❖表彰式：コンファレンススクエアエムプラス サクセス（東京都千代田区丸の内2-5-2 三菱ビル1階）
- ❖展示会場：行幸地下ギャラリー（東京駅地下道）

三菱地所株式会社は、5月25日（月）～6月21日（日）の期間、「ART AWARD TOKYO MARUNOUCHI 2026」（以下、AATM）を開催します。

20回目の開催を迎えるAATMは、今年も今年も全国18校からノミネートされた200点の作品より、厳選した20作品を展示します。開幕日の5月25日（月）には、グランプリなど各賞を決定し、表彰式を行います。

また、期間中はAATM初回参加作家で、現在も活躍中の作家による特別展「AATM2026 サテライト展」を三菱一号館美術館のEspace 1894にて開催します。

つきましては、ご多用と存じますが、開幕当日の2026年5月25日（月）、下記の通り展示会場内覧ならびに受賞者表彰式をぜひご取材賜りたく、ご来場の程何卒よろしくお願い申し上げます。

### 記

- 日時（表彰式）：2026年5月25日（月）16:00～17:30（受付開始15:30）

※受付は三菱ビル1F コンファレンススクエアエムプラス サクセスにて行います

- 当日の進行予定：

展示会場ご案内

15:00～15:45 行幸地下ギャラリー（東京駅地下道）

※ご希望の方は上記時間内にご取材いただけますので、直接現地へお越しください

表彰式（会場にて受付）16:00～17:30 三菱ビル1F コンファレンススクエアエムプラス サクセス

※表彰式終了後も行幸地下ギャラリーでの撮影が可能です。また、三菱一号館美術館 Espace 1894にて開催の「AATM2026 サテライト展」もご覧いただけます。

※展示会場、サテライト展は一般の方にも公開しております。



#### 【コンファレンススクエアエムプラス サクセス アクセス】

JR 東京駅 丸の内南口 徒歩2分  
 JR 京葉線 東京駅 10番出口 直結  
 地下鉄 丸ノ内線 東京駅 地下道経由 徒歩3分  
 地下鉄 千代田線 二重橋前駅 4番出口 徒歩 約2分  
 地下鉄 都営三田線 大手町駅 D1出口 徒歩 約4分  
 地下鉄 東西線 大手町駅 B1出口 徒歩 約6分



#### 【行幸地下ギャラリー】

JR 東京駅地下道、直結、丸ノ内線の改札を出てすぐ。  
 東京駅前、「丸ビル」と「新丸ビル」をつなぐ地下通路のギャラリースペースです。

## 【ご出席のお申込みについて】

**5月22日(金)正午までに**、下記のいずれかの方法でご返信をお願いいたします。

◆出席申込みフォームよりお申込み：<https://tayori.com/f/aatm2026/>

申込みフォームへのアクセスは右記二次元コードもご利用ください。

◆「AATM2026」広報事務局へメールでお申込み

E-Mail：[marunouchi-art@ohanapr.co.jp](mailto:marunouchi-art@ohanapr.co.jp)

貴社名、貴媒体名、ご出席者のフルネーム、人数、スチールまたはムービーの有無、E-mail、電話番号をお書き添えください。

## 【展示会場・表彰式当日について（お願い事項）】

- ◆当日は名刺をご用意ください。
- ◆会場の電源は使用できません。
- ◆表彰式終了後、審査員・受賞者への個別取材も可能です。広報事務局へお問い合わせください。
- ◆表彰式終了後、三菱一号館美術館 Espace 1894にて開催の「AATM2026 サテライト展」もご覧いただけます。
- ◆駐車場のご用意はございませんので、公共交通機関でお越しくださいますようお願いいたします。

※受賞者および審査員への個別の取材をご希望の方は、広報事務局までお問合せください。

## ■「ART AWARD TOKYO MARUNOUCHI 2026」開催概要

---

<開催日程> 2026年5月25日（月）～6月21日（日）11:00～20:00

※最終日のみ18:00まで。

※観覧可能時間は変更になる場合がございます。

<展示会場> 行幸地下ギャラリー

<入場> 無料

<主催> 三菱地所株式会社

<協賛> 株式会社大林組、公益財団法人アイスタイル芸術文化財団、一般財団法人川村文化芸術振興財団、大和証券グループ、能美防災株式会社、丸の内熱供給株式会社

<後援> 三菱一号館美術館／在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ東京

<Webサイト> <https://www.marunouchi.com/pickup/event/9604/>

## ■AATM2026 サテライト展

---

AATM初回参加作家で、現在も活躍中の作家による特別展を開催いたします。※入場無料

<日時> 2026年5月25日（月）～6月21日（日）10:00～18:00、

休室：月曜（5月25日は開室）、6月12日（金）

<会場> 三菱一号館 Espace 1894

展示会場・表彰式  
取材申込み





小牟田悠介  
《Unfolded #40》2023

### 小牟田悠介

1983年大阪府生まれ。2007年京都造形芸術大学芸術学部美術工芸学科卒業、2009年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修士課程修了。

二次元と三次元を行き来しながら、次元を超えた空間や時間の広がりをも織り込むような作品世界を探索する現代美術作家。近年は、空間や場所との関係性による作品の在り方にも関心を広げ、ベネッセアートサイト直島「家プロジェクト」I邸（2014年、犬島、岡山）でのインスタレーション作品をはじめ、「GENBI SHINKANSEN（現美新幹線）」（2016-20年、上越新幹線臨時列車「とき」12号車内）、陸前高田市でのプロジェクト等に積極的に取り組む。主な展覧会に、2021年個展「新しい天体」（SCAI THE BATHHOUSE、東京）、2020年「SCAI 30<sup>th</sup> Anniversary Exhibition：アースライト—SFによる抽象の試み」（駒込倉庫、東京）、2019年個展「space | aspect」（PARCEL、東京）、2016年「Lines of Flight」（Gallery EXIT、香港）、2016年「瀬戸内国際芸術祭2016」（「家プロジェクト」I邸、犬島、岡山）、2015-16年「Breaking through to the actual via the imagination: Long museum collection show concept by Yukohasegawa」（龍美術館、上海）、など。



谷澤紗和子《お喋りの効能 -ツボとめぐり-》  
2025 © 2025 EUREKA

### 谷澤紗和子

2007年京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻（油画）修了、京都市立芸術大学准教授。

「妄想力の解放」や「女性像」をテーマにした作品を制作する。ジェンダーへの関心を元に、女性表現者に対する固定的な評価を問い直す。インスタレーション、作陶、切り紙、絵画など、いくつかの表現手法を横断、交差させながら、作品制作を行う。小説家やアーティストとの共同制作にも取り組んでいる。主な展覧会に東アジア文化都市2017京都アジア回廊現代美術展（二条城）2017年、高松コンテンポラリーアートアニュアルnol.05（高松市美術館）2016年、化け物展（青森県立美術館）2015年などがある。



抜水摩耶  
《STRANGE STRANGERS》2025

### 抜水摩耶

1982年京都府生まれ東京都在住。京都芸術大学（旧京都造形芸術大学）芸術学部情報デザイン学科卒業、京都芸術大学（旧京都造形芸術大学）大学院芸術研究科芸術表現専攻修了。

2012年より東京に活動の拠点を移す。大学時代より田名網敬一に師事。幼少期より多大な影響を受けた漫画カルチャーをもとに、無限に存在する主人公を肯定的に表現。ポップで描き込まれた作風が特徴で、幽霊の様にその場に残り続ける痕跡や物語をエネルギーに満ちた世界観で描く。国内外で作品発表を重ねる傍ら、アートフェアの参加や、私立恵比寿中学、マカロニえんぴつ等のCDジャケットのアートワークなど幅広く活動している。近年の主な個展に、「STRANGE STRANGERS」（OIL by 美術手帖ギャラリー、東京、2025）など。



安田悠  
《Recall 24-01》2024 © yuyasuda

### 安田悠

1982年香川県生まれ。2007年武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻油絵コース修了。

初期作品で見られた日常の景観や具象的に描かれた風景は徐々に抽象度を増していき、陽炎のような色彩の集合体でありながら何処ともいえない風景が広がる安田特有のスタイルが確立されてきた。作家活動開始当初から心象風景や幻想的と形容されてきたその世界は、ある特定のイメージを描き出すというよりは、絵具が生み出していく偶然性と必然性に独自の感性で向き合うことで現れてきている。とくに近年は、色彩や色の形態を探索する形で制作が始まり、その結果として作品としてなりえる瞬間を探るよう制作が進められている。これまでの展示に「VOCA展2008」（上野の森美術館、東京、2008年）、「Art in an Office」（豊田市美術館、愛知、2011年）、「横浜美術館コレクション光をめぐる表現」（横浜美術館、横浜、2012年）など。近年は、虎ノ門ヒルズレジデンスのパブリックワークを手がけるなど活動の幅を広げてきている。

### 報道関係お問合せ先

「AATM2026」広報事務局（株式会社 OHANA 内）担当：妹尾・細川

TEL：03-6869-7881 Fax：03-6869-7801 E-mail: marunouchi-art@ohanapr.co.jp

〒102-0074 千代田区九段南 1-5-6 りそな九段ビル 5F